

「悲劇の皇女」の跡地 「こじよもり」はここ!!

中村町文化財
保存会だより

第6号
発行：中村町文化財保存会



皇女森とは

皇女森のことを、中村の人々は昔から「こじよもり」又は「こじよのもり」と呼んでいました、しかし正しくは「こうじよのもり」といいます。

皇女森には、色々な伝承地説がありますが、広く知られているのは、**栲幡皇女**が身の潔白を証明するために鏡を埋めて命を絶った場所としてではないでしょうか。

栲幡皇女とは、雄略天皇の娘で別の名を「稚足姫皇女」と言い、日本書紀に記されているこの話が世間に広く知られるようになったのは、江戸時代の伊勢参宮が盛んな時期に出版された、伊勢参宮の案内書「伊勢参宮名所図会」で、人々はこれらを読んだり話に聞き、多くの人が皇女の森の話を知る事になりました。

皇女森はここ

「皇女森」をスマホやパソコンで検索すると、「楠部入口の水田の中に、ポツンと数本の木が茂る小さな森」が出て来るのではないのでしょうか。

近年、皇女森は郷土史の本や新聞記事にも、又明和町のホームページ



ジには、「斎王ゆかりの地」として紹介されたりしていますが、いずれも楠部町の田園の中、宇治乃奴鬼神社跡を指しています。

しかし中村町所有の古絵図等で詳しく調べてみると、「皇女森」と「宇治乃奴鬼神社跡」とは同じ場所ではなく、宇治乃奴鬼神社跡より百五十m南、新しく出来た市道との交差点付近の中村町地内になります。

皇女森跡地は、横池の東端で五十鈴川の古川沿いにありましたが、楠部や中村の耕地整理により、古川や横池がだんだんと埋め立てられて田畑に変わってしまった、又昨年七月には国道23号線とのバイパスとして開通した道路敷地の一部となつてしまいました。
立派な立木や社も無く、車が往來するアスファルトと化してしまっ

た跡地ですが、「こじよもり」の場所を再認識していただき、地元の人達が後世に語りついでいきたいものです。
しかし、皇女森にはその他、「倭姫命ゆかりの地」説や「奈尾之根宮旧址」説などの伝承地説が歴史書に記されていることも記憶に留めていただきたいと思います。

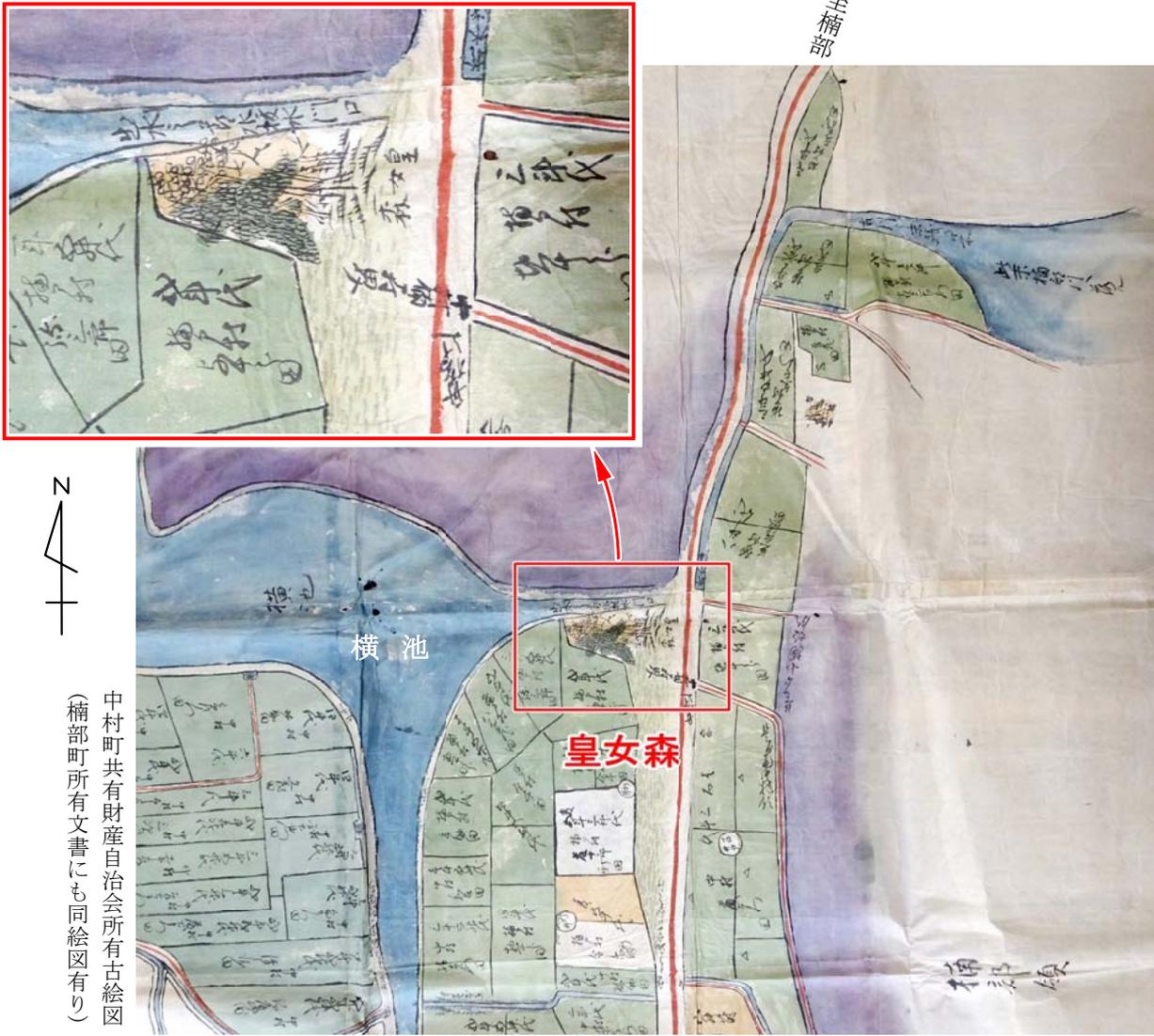
栲幡皇女の話

五代目の斎王で、日本書紀では雄略天皇三年(四五九)夏四月の出来事とされ、明和町の斎王紹介欄には、次のような現代文で紹介されています。

「湯人の廬城部連武彦が皇女を妊娠させたと言言する者がありました。天皇からの使者に詰問された皇女は「わたしは知らない」と答え、その夜にわかに神鏡を持って失踪してしまいました。

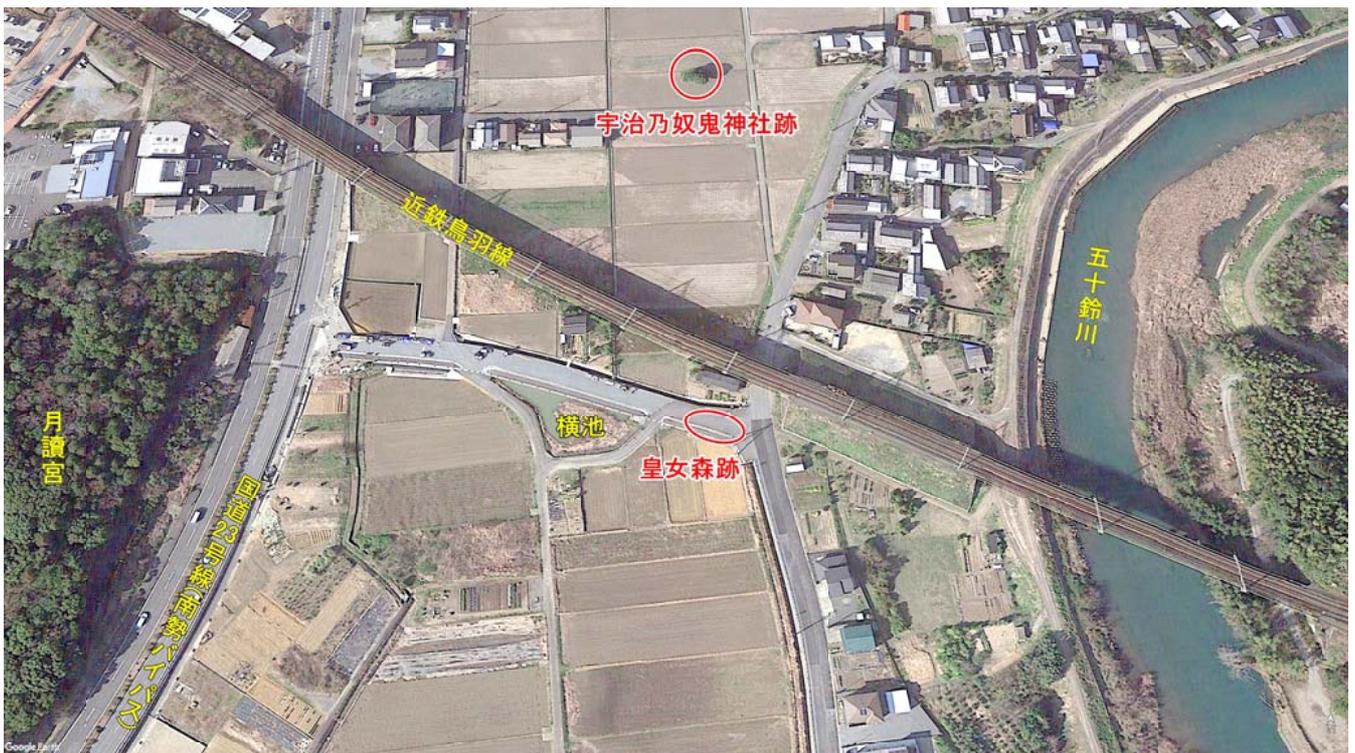
人々が皇女を探していると、五十鈴川のほとりで虹が蛇のように立ちのぼっていたので、不思議に思つてその辺りを探してみると、神鏡が埋められており、その近くで皇女は自らの命を絶つていました。その遺体をあらためてみると、水のようなものと白い石が認められただけで、妊娠しているようすはなかったということでした。」

中村と楠部境界付近絵図 天保七年(一八三六)



中村町共有財産自治会所有古絵図
(楠部町所有文書にも同絵図有り)

至中村



提供: Google Earth 地図